



同報系防災行政無線（同報無線）は、災害時などの緊急情報発信や行政からの生活に必要な情報発信など、さまざまな役割を果たしています。
同報無線のデジタル化整備完了により、放送内容をメールやLINEアプリなどで確認できるようになりました。
問い合わせ 防災課 西原 ☎(23)0056

「まきのはら Tea メール」や「LINE」に登録しておけば、戸別受信機や防災ラジオがなくても、電波の届く範囲であればどこにいても、**放送内容と同じ内容**を、スマートフォンや携帯電話で確認できます。ぜひ、登録をお願いします。

▶まきのはら Tea メール

右のQRコードを読み取るか、次のアドレスを入力して空メールを送信し、画面に従って登録手続きをしてください。



☑ bousai.makinohara-city@raidan2.ktaiwork.jp

▶牧之原市 LINE 公式アカウント

ホーム画面でID(makinohara_city)を検索するか、右のQRコードを読み取って「友だち追加」してください。



放送内容が聞き取りにくかった場合や聞き逃してしまったときなど、専用の電話番号に電話をかけることにより、**放送内容を確認**できます。

▶同報無線テレフォンサービス ☎0999

別途通話料がかかります。また、回線が混み合っている場合、つながりにくいことがあります。

*火災情報は、消防テレフォンガイド ☎018(099)5678) で確認できます。

同報無線のデジタル化整備が完了しました

電波法関係法令の改正により、令和4年11月末以降、アナログ方式の同報無線設備は使用できなくなります。また市の無線設備は、導入から25年以上が経過して老朽化し、更新時期を迎えています。こうした理由から、市では無線設備のデジタル化整備を進め、このたび整備が完了しました。

今回、市民の皆さんに災害情報などを迅速に伝達するため親局設備を更新し、中継局や再送信子局を設置することで、電波の伝わりやすさを改善しました。また、屋外拡声子局（屋外スピーカー）は、スピーカーの種類や個数などを見直し、より広範囲に伝わるようにしました。

市ではすでに、アナログ方式からデジタル方式へ移行し、運用を始めています。ただし、併用移行期間として、令和4年11月末までは、デジタルとアナログの2つの方式で放送します。

【デジタル方式】

デジタル方式では、市内全域110カ所に設置した屋外スピーカーから、緊急情報をはじめ、さまざまな情報を放送します。

最新設備に更新し、雑音が低減された音声合成システムを導入したことにより、音質が改善され、聞き取りやすい明瞭な音声での放送が可能になりました。

【アナログ方式】

現在、アナログ方式による放送は、戸別受信機や防災ラジオからのみ聞くことができます。ただし、現在使用しているアナログ方式の戸別受信機や防災ラジオは、令和4年11月末以降は放送が流れなくなります（防災ラジオを通常のラジオとして使用することは可能）。

	デジタル方式	アナログ方式(*)
放送機器	屋外スピーカー（市内110カ所に設置） 屋内戸別受信機（避難施設などに配置）	屋内戸別受信機 防災ラジオ
放送内容	【緊急放送】 防災・災害情報、Jアラート、行方不明者情報、詐欺被害注意喚起情報、市政情報など 【定時放送】 毎日午前7時、正午、午後5時	

*令和4年11月末まで。ただし、アナログ方式の機器が故障した場合は、その時点で放送を終了します。

相良藩主・本多家三代

— 郷土の礎を築いた人々 —

問い合わせ 社会教育課 長谷川 ☎(53)2646

本多家三代の功績と顕彰

田沼意次侯生誕300年記念に沸いた令和元(2019)年。相良城の築城や城下町の整備、産業の振興など、田沼家の郷土に対する功績は非常に大きく、今後も忘れずに顕彰していく必要があります。

しかし、そうした田沼家の功績も、それ以前に郷土を治めた「本多家三代」がいなければ、成し遂げられなかったのではないのでしょうか。

本多家三代とは、意次侯以前に相良藩主をつとめた5人の藩主のうち、本多忠晴侯(初代)、忠通侯(2代)、忠如侯(3代)の3人の藩主を示す用語です。当地を本拠地とする大名家は、この本多家(1忠以系本多家)が初めてでした。初代忠晴侯は、徳川四代

王(徳川家康に仕えた4人の有力武将)の一人で名槍蜻蛉切で有名な、本多忠勝のひ孫に当たる人物です。寛永18(1641)年、当時掛川藩主だった本多忠義の四男に生まれました。寛文4(1664)年、兄・忠以の死去によって陸奥・浅川藩一万石を相続すると、三河伊保藩を経て、宝永7(1710)年に相良藩を立藩しました。棟原おおよび城東郡を中心に一万五千石の領地を有し、相良陣屋や宝泉寺を建築したり、村々に法度を発布したりして、領内の整備に尽力しました。正徳5(1715)年、75歳で亡くなりました。

2代忠通侯は、宝永2(1705)年、忠晴侯の子・忠直の長男に生まれました。正徳5年、忠晴侯が死去したため、遺領を継いで相

良藩主となりました。享保6(1721)年、わずか17歳で亡くなりますが、般若寺に鐘を寄進したり、大江八幡宮の本殿を再建したりするなど、一定の功績を残しました。来年の令和3(2021)年は、忠通侯の没後300年に当たります。

3代忠如侯は、正徳2(1712)年に忠直の三男(忠通侯の弟)に生まれました。忠通侯の死去に伴い、わずか10歳で相良藩主に就任すると、延享3(1746)年に陸奥泉藩へ移封されるまで、約25年間に渡って当地を治めました。特にかんがい事業に熱心で、海老江村や徳村に溜池を造成しました。

こうした本多家三代の積み重ねによって、郷土の基盤が整えられていったのです。

本多家三代の史跡・文化財



①本多忠晴侯の墓(★) 初代忠晴侯の墓所は、小堤山公園(波津区)内にある。兄・忠以や家臣の墓も同じ敷地内にある。この地には、かつて宝泉寺という寺院が存在した。②田宝泉寺の宝物(★) 宝泉寺(廃寺)は、初代忠晴侯を開基とする黄檗宗の寺院で、小堤山公園が寺地の一部だった。本年10月、市史料館で寺宝の一部を公開予定である。③宝泉寺位牌堂 現在、波津区公会堂の南裏に位牌堂が建立され、本尊や本多家一族の位牌が祭られている。波津区の人々によって供養念仏や供養祭が行われている。④本多忠通侯の墓(★) 2代忠通侯の供養碑。東中橋を大江側へ渡って、そのまま進んだ先の小高い丘にある。亀が石碑を背負うという珍しい形状を持つ。⑤大江八幡宮本殿(★) 享保3(1718)年、2代忠通侯を大権那として建立された市内最古の神社本殿建築である。★=市指定文化財